

『 楽しい学校(楽校)の創造をめざして 』

～NIEを活用して、すすんで楽しく学ぶ児童の育成をめざす～

II 研究の具体的内容

1. 授業実践・授業研究へ取り組む。

- ・ 授業研究はブロック研究を基盤にして進める。ブロックより1人が全体に検証授業を提案し、全体会で協議を行う。指導助言者を招いて、授業と研究内容について指導・助言をしてもらう。
- ・ 検証授業をする学年以外も一人一実践として授業公開を行う。なるべく全員が参観し相互の学習の機会とする。

2. どんな実践が効果的なのか、理論や先行研究を学び、研究を進める。

- ・ 講師を招聘し、理論や先行研究の様子などを学ぶ。
- ・ NIEの先進校の実践や文献、参加した研修会などの伝達をする学習会を行う。

3. ファミリーフォーカスを推進する。

- ・ 家庭で新聞に親しむ「ファミリーフォーカス」は、社会教育の場づくりになる。児童たちが得た成果などを保護者へ情報発信する。

4. 昨年度まで実践し、成果を上げてきた活動に、継続して取り組む。

- ・ 業前の10分学習で、NIEを取り入れる。
- ・ 新聞感想文に取り組む。

II 成果と課題

1. 授業実践・授業研究へ取り組む。

- ・ 授業研究は低・高学年ブロック研究を基盤にして進めた。低学年・高学年各ブロックより1名が全体に検証授業を提案し、全体会で協議を行った。10月の低学年ブロックの検証授業および12月の高学年ブロックの検証授業においては、峡東教育事務所・指導主事の宮澤洋一先生を招聘して、授業の指導助言、本校の校内研究に関わる参考になるお話や資料を提供していただいた。
- ・ 検証授業をする学年以外の教職員も、一人一実践として授業公開を行った。全員が参観し研究会を持ち相互の学習の機会とした。

2. どんな実践が効果的なのか、理論や先行研究を学び、研究を進める。

- ・ NIEアドバイザーの樋口孝治先生と中島葉子先生を講師に招聘し、NIEを効果的に取り入れた実践事例などを学んだ。

- ・各種の研究会に参加した職員が還流報告を行ったが、N I Eの積極的な活用が奨励されていることがわかった。

3. ファミリーフォーカスを推進する。

- ・年間を通じて毎週取り組んできた、業前の10分学習での新聞の記事読みと新聞スクラップ（自分の興味を持った記事を切り貼りし、一言感想を書く活動）を、3学期は家庭でも取り組んだ。家庭でも、新聞記事や世の中の話題について会話をする機会が作ることができた。また、児童が取り組んできた新聞スクラップを家庭に持ち帰ることによって、学校でのN I Eの取り組みの様子を、家庭に情報発信することができた。

4. 昨年度まで実践し、成果を上げてきた活動に、継続して取り組む。

- ・業前の10分学習で、毎週火曜日は新聞を読み、水曜日は新聞スクラップに取り組んだ。新聞を読むことやスクラップの取り組みで、新聞に慣れ親しんだり、世の中の話題に目を向けるという目的が達成された。
- ・新聞感想文コンクールに全校児童が取り組んだ。感想文を書くことによって、自分の考えを言葉に置き換えて文章に表す力をつける取り組みにできた。
- ・教師も、新聞の情報交換の場をつくる意味で、毎朝順番に新聞スピーチを行った。新聞への興味関心を高め、スピーチの技能が向上した。

IV 成果物

1. 検証授業指導演（ワークシート等も含む）

- | | | | |
|-----|-----|----------------|-------|
| ○1年 | 国語科 | 「しらせたいな、見せたいな」 | 平塚すみり |
| ○4年 | 国語科 | 「アップとルーズで伝える」 | 藤波 貴 |

2. 一人一実践授業指導演（ワークシート等も含む）

- | | | | |
|-------|-----|-------------------------------|-------|
| ○2年 | 国語科 | 「新聞を作ろう」 | 野尻政彦 |
| ○3年 | 国語科 | 「話し合おう、大切なこと」 | 斎藤史子 |
| ○5年 | 国語科 | 「新聞を読もう」
～報道記事のとくちょうをつかもう～ | 志村克人 |
| ○6年 | 社会科 | 「世界の中の日本」
～日本とつながりの深い国々～ | 竹川由美子 |
| ○特別支援 | 国語科 | 「新聞を読もう」（5年）
「新聞を作ろう」（2年） | 古屋美知子 |

3. その他（主なもの）

- 学習会や検証授業に招聘した講師の方々にご提供いただいた、本校校内研究に関わる資料

（研究主任 志村克人）